

## 資料

## 地域看護学実習における地域看護活動の展開スキルの学習内容

伊藤 直子\* 重松 由佳子\*\* 布花原 明子\*\* 山田 小織\*\*\*  
鹿毛 美香\*\*\* 能見 潤子\*\*\* 石井 美紀代\*\*

## 〈要約〉

地域看護活動の展開スキルに焦点をあて本大学の行政における地域看護学実習の学習内容を明らかにすることを目的として研究を行った。

地域看護活動の展開スキルの学習内容は以下の2点が明らかとなった。

- 1, 「地域看護活動の展開スキル」は「地域診断」を中心に学んだ。「関係づくり」「共有・合意」「企画」「協力・共同」は必要性を理解し、「システム・事業の運営」「情報管理」に関する内容はなかった。
- 2, 「地域診断」の学習は、地域の問題・課題の分析が中心であった。

実践能力育成に目指した地域看護学実習の検討課題として以下の3点があげられた。

- 1, 地域看護学でねらう地域看護活動の展開スキルの検討
- 2, 地域看護展開を実体験できる教育方法の開発
- 3, 実習における学習環境要因の検討

キーワード：地域看護学実習 地域看護活動展開スキル 学習内容 実践能力 地域診断

## はじめに

看護学実習は、あらゆる看護の場において、各看護学の講義、演習により得た科学的知識、技術を実際の対象に実践し、既習の理論、知識、技術を統合、深化、検証するとともに、看護の社会的価値を顕彰する授業である<sup>1)</sup>。しかし、我が国の大学教育における地域看護学実習の現状は、地域看護学の理論、知識、技術を理解することを重視しており、保健師としての実践能力を身につけることを目標に掲げている大学は少ないという指摘がある<sup>2)</sup>。看護を行うためには、その状況を適切に判断し、その上に立って看護方法の選択を始める必要がある。それには判断の根拠となりうる知識を活用して状況を解釈する能力と多様な看護方法の知識とその実践能力が必要となる<sup>3)</sup>。地域看護学実習において保健師の実践能力育成を目指すには、地域の状況を根拠に基づいて判断し、適切な地域看護活動を選択し、実践するための展開スキルの育成が必要である。しかし、本学では、地域看護活動の展開スキルの視点で学習内容を把握できていない。また、地域看護学実習に関する研究においても、地域看護活動の展開スキルに

焦点をあて、学生の学習内容を分析した研究はみられない。

そこで本研究で、地域看護活動の展開スキルに焦点をあて、本学において地域看護学実習を構成する行政、在宅、企業、診療所実習のうち、行政における地域看護学実習の学習内容を明らかにすることを目的とした。

## I 研究方法

## 1 研究対象

看護学実習ローテーションにおいて、同時期に最大人数で地域看護学実習を行った学生21名

## 2 データ

行政における実習中の言動および8日分の「毎日の記録」から考察した表現を文脈により抽出した。学生の言動に関しては、デイリーカンファレンスおよび中間・最終カンファレンスをテープで録音し、逐語録を作成した。また、実習中の学生の様子について可能な限り参与観察を行った。

\* 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 教授

\*\* 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 講師

\*\*\* 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 助手

### 3 データ分析

データから地域看護活動の展開スキルを抽出し、山田<sup>3)</sup>らによる「地域保健分野における保健婦の新たな看護方法に関する研究」の「地域看護活動の展開に用いたスキル」(表1)を用い分類し学習内容を分析した。なお、抽出・分類・分析は、まず研究者各々行い、その後研究者全員で協議し、全員の一致がみられたものは採用し、一致が見られなかったものは、全員の合意が得られるまで検討した。

### 4 倫理的配慮

学生に対して、研究の主旨を説明し、研究以外の目的で使用することはないこと、個人が特定できるような取り扱いをしないことについて文書及び口頭で説明し、文書にて同意を得た。実習カンファレンスの録音、参与観察については、実習指導者に口頭で研究目的を説明し同意を得た。

### 5 地域看護学実習の概要

#### 1) 実習目的

地域で生活する個人・家族及び地域社会集団を対象として展開される看護活動を通して、既習の知識、理論を統合し応用しながら看護の実践に必要な基礎知識・技術・態度を学ぶ。

#### 2) 行政における地域看護学実習の実習目標

- (1) 住民との交流、関係機関からの情報、調査、研究、統計情報から実習地区の概況を把握し、地区の健康課題を明らかにする。
- (2) 明らかになった健康課題を解決するためにどのような方法が行われているのかを理解する。
- (3) ネットワーク化、システム化、施策化の意味を理解する。
- (4) 行政における看護職の役割を理解する。

#### 3) 実習前課題

既存の資料から実習地区の概況を調べ、学生自身の実習目標をレポートする。実習目標を立案するための既習の知識、理論の復習と、学習意欲の向上を期待した課題である。

#### 4) 実習展開

地域看護学実習期間4週間の前半2週間で行政実習を行っている(図1)。行政における地域看護学実習展開例(表2)のように、実習期間の中で半日ごとに対象・事業が変わる。事業の参加見学を主に行う。

表1 地域看護活動の展開に用いたスキル

関係づくり	傾聴・面接技術	・信頼関係を構築する技術 ・共感して聴く技術 ・話しやすい関係をつくる技術
	アセスメント	・関係性を観察する技術 ・問題を引き出す技術 ・「あるべき姿」を描くことができる技術
	働きかけ	・見通しを持って働きかけをする技術 ・問題を提起する技術 ・関係者を巻き込む技術
地域診断	状況認識	・社会情勢の変化を把握する技術 ・潜在的な課題を把握する技術 ・問題・課題を確認する技術
	関係分析	・支援関係を判断する技術 ・事例の問題と地域の課題を関連させる技術 ・関係機関と連携しながらアセスメントする技術 ・関係者の支援力、協調力をアセスメントする技術 ・援助の効果・限界を見極める技術
	問題分析	・ニーズを把握する技術 ・現状・問題を把握する技術 ・情報を分析・統合する技術 ・あるべき姿を描き、問題を発見する技術
共有・合意	場の設定 (雰囲気づくり)	・場を設定する技術(雰囲気作りも含む) ・話に傾聴する技術 ・納得できるように話し合いを提案する技術
	プレゼンテーション	・資料作成技術 ・事例を資料化できる技術 ・問題の整理と改善策を提案する技術 ・地域で支え、解決することの必要性を説明できる技術 ・相手に合わせた説明ができる技術 ・合意形成をするための技術
	情報の収集	・日頃から情報収集する技術 ・実態調査をする技術
	アセスメント	・関係機関の状況を把握する技術 ・地域のケア力をアセスメントする技術 ・地域としての課題を明確にする技術 ・働きかけ先を見極める技術 ・共有する相手を判断する力 ・トラブルを起こさないように見通す技術
	合意にむけた働きかけ	・参加を働きかける技術 ・問題を共有する技術 ・資料をもとに合意をえる技術 ・合意を確認するように働きかける技術 ・支援・協力を依頼する技術
	リーダーシップ	・役割を明確にする技術 ・「あるべき姿」を描くことができる技術 ・方針を決定する技術 ・地域の問題の掘り方や援助方法を教育する技術
企画	企画	・事業を企画する技術 ・企画書の作成技術 ・課題を事業内容に反映させる技術
協力・共同活動	交渉	・人材、資源を探る技術 ・組織内の人間関係を判断する技術 ・説得する技術
	協力・依頼	・主体的な参加を促す技術 ・協働への働きかけをする技術 ・協力体制を作る技術
システム・事業の運営	資料作成	・資料作成技術
	企画	・対象選定の技術 ・グループ運営の技術 ・プログラム作成技術 ・会議を進める技術
	運営	・関係機関を選択する技術 ・関係機関につなぐ技術 ・組織を支援する技術 ・自主的な運営を創的に支援する技術
情報管理	情報管理	・資料作成技術 ・情報の管理技術 ・資料を整理する技術 ・伝達技術

出典:山田和子:地域保健分野における保健婦の新たな活動方法に関する研究. 26. 1999

Table1. Basic skills for the developmental skills of community health nursing activities. Figure1. The development

表2 行政における地域看護学実習実習展開例

初日	午前	午後
1日目	午前	学内でのオリエンテーション 地域型デイサービス 対象: 独居・夫婦のみ世帯の高齢者 精神障害者生活ケア 対象: 地域で生活する精神障害者 ※精神障害者は、ボランティアとして参加 スタッフ: 地区担当保健師、看護師、ケースワーカー、地域ボランティア、民生委員
	午後	健康教育の準備(デモンストレーション) スタッフ: 指導保健師、担当保健師、教員 ※6日目に学生が実施するミニ健康教育について、対象者の状況やこれまでの保健師の関わりを聞き、内容を検討する
2日目	午前	オリエンテーション スタッフ: 保健師(係長)、高齢者・障害者福祉担当係長、生活保護担当係長、地域づくり担当係長
	午後	地域の健康相談 対象: 地域の成人、高齢者 スタッフ: 地区担当保健師、看護師、地区の福祉相談員、民生委員
3日目	午前	B型機能訓練 対象: 虚弱高齢者 (寝たきり判定基準ワーク) スタッフ: 地域担当保健師、看護師、社会福祉協議会職員、市民福祉センター館長・職員、地区の福祉協力員、民生委員 ※保育園児との交流会
	午後	乳児健康相談 対象: 生後2~4ヶ月の乳児と母親 スタッフ: 保健師、保育士、助産師 ※健康相談終了後、パパママ準備講座の参加者と交流会
4日目	午前	地域の乳幼児なんでも相談 対象: 地域の乳幼児と保護者 スタッフ: 地区担当保健師、看護師、助産師、地区の児童委員
	午後	フッ素塗布 対象: 上下4本歯が生えた幼児 スタッフ: 歯科医師、歯科衛生士 学生の間カンファレンス 参加者: 指導保健師、保健師係長、教員
5日目	午前	フィールドワーク (家庭訪問対象者が不在のため) ※訪問対象者の居宅周辺を車で廻りながら、担当保健師が地区住民の特徴や保健事業について説明する
	午後	ツベルクリン反応(集団接種) 対象: 48ヶ月未満の乳幼児 スタッフ: 医師、看護師
6日目	午前	地域の健康相談 対象: 各地区老人クラブの婦人部長 スタッフ: 保健師、看護師 ※学生がミニ健康教育を実施
	午後	パパママ準備講座(2回目/3回) 対象: 妊婦とその夫 スタッフ: 保健師、看護師、助産師、歯科衛生士、栄養士
7日目	午前	精神障害者共同作業所 対象: 地域で生活する精神障害者 スタッフ: 生活指導員
	午後	BCG(集団接種) 対象: 48ヶ月未満の乳幼児 スタッフ: 医師、看護師
8日目	午前	地域の育児サークル 対象: 就学前の乳幼児と保護者 スタッフ: 保健師、地区の児童委員、地区のボランティア
	午後	精神障害者デイケア 対象: 地域で生活する精神障害者 スタッフ: 生活指導員 学生の間カンファレンス 参加者: 指導保健師、保健師係長、教員

※毎日16:30~17:00は、学びの共有のためのディスカッションを行う

Table2. Cases of community health nursing practices at administrative

図1 地域看護学実習展開

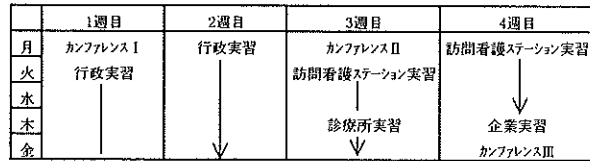


Figure1. The development of community health nursing.

## II 結果

行政における地域看護学実習の「地域看護活動の展開スキル」の学習内容の文脈は、「地域診断」に関するものが112文脈と全体の64.7%を占め、「関係作り」は30文脈(17.3%)、「共有・合意」21文脈(12.1%)、「協力・共同活動」8文脈(4.6%)、企画2文脈(1.1%)であった。「システム・事業の運営」、「情報管理」に関する文脈は抽出されなかった。以下に地域看護活動の展開スキル別に学習内容を分析した(表3)。

### 1) 関係作り

「関係作り」の内訳は、「傾聴・面接技術」8文脈、「アセスメント」14文脈、「働きかけ」8文脈であった。

#### (1) 傾聴・面接技術

傾聴・面接技術について、「対象者の視点に立った面接技術の必要性」、「対象の背景を捉え対象者が解決できるようなかわりの必要性」、「短時間での信頼関係形成の必要性」、「面接環境の整備の必要性」の内容を抽出した。

「対象者の視点に立った面接技術の必要性」を表す代表的な文脈は『対象の興味・関心・難易度・理解度等をその立場に立った視点から考えて工夫を重ねることの重要性を実感した。』、「対象の背景を捉え対象者が解決できるようなかわりの必要性」は『母親の性格を見極め、母親に合わせて話し方を変え、個別性を考えることが必要だとわかった。』であった。

#### (2) アセスメント

アセスメントについて、「住民同士の関係から生活・課題・地域看護活動の分析することの必要性」、「住民間の交流の必要性」、「地域の実態からあるべき姿の想像」、「関係作りの必要性と意義」を抽出した。『交流の中で、地域住民の方々が知ろうわかってもらう姿勢だけでなく、精神障害者の方々も知ってもら

地域看護学実習における地域看護活動の展開スキルの学習内容

表3 地域看護活動の展開スキルの学習内容と抽出した文脈例と数

スキル	学習内容	抽出した文脈例*1	文脈数	合計 (割合)
傾聴・ 面接技術	対象の視点にたった面接の必要性	対象の興味・関心・難易度・理解度等をその立場に立った視点から考えて工夫を重ねることの重要性を実感した。	8	30 (17.3%)
	対象の背景を捉え対象者が解決できるような関わりの必要性	その母親の性格を見て、不安の強い人なら、間違っている事は、正しいことを教えてあげ、出来ていることは褒め、自信をつけてあげることを中心に行っていることだった。母親の性格を見極め、母親に合わせて話し方を変え、個別性を考えることが必要だとわかった。		
	短時間での信頼関係形成の必要性	信頼関係を深めるといことは短期間では難しいと思われるが、いかに短い期間で信頼関係を深めることができるかということには保健師をはじめとする専門職の関わり方が重要なことであるのではないかと考えた。		
	面接環境整備の必要性	妊婦さんへの配慮(気分が悪くなったり、トイレに行きたい時は、自由に退室など)がなされており、リラックスした雰囲気や聞ける指導であった。		
アセスメント	住民同士の関係から課題を分析することの必要性	交流の中で、地域住民の方々が知らず知らずとする姿勢だけでなく、精神障害者の方々も知ってもらうための努力が必要であると言ったことを知った、このことから住民同士の関係を見ることが必要であると感じた。	14	
	住民間の交流の必要性	地域の人に精神障害者を理解してもらうためには、はじめから精神障害者の人たちがこういう人なんですと決して一方的におしつけるのではなく、このような活動を行って一人一人が交流を回っていくこととお互いを知り得てこそ、理解につながるのではないかと考えた。		
	地域の実態からあるべき姿の想像	育児相談などの活動を通して、少子化という問題が地域交流の希薄化をまねき、母親の育児不安を増大させていることを活動を通して実感した。母親が抱えている悩みや不安を相談でき、安心して子育てができるような環境がもつと必要であると思う。		
	関係作りの必要性と意義	顔見知りだった方たちがまたいろいろ話すことで、交流が出来、仲間づくりへとつながっていくのだろうと感じた。		
働きかけ	見逃しなかった幅広い視野での関係作りの必要性	学校などとの連携も、問題がないときにネットワークを結んでおくと、なにか問題があったときに問題が表出しやすい	8	
	住民・他機関と関係を作る必要性	保健師は、住民が地域組織や関係機関を超えたレベルで地域を考えられるように、環境作りをする役割があると感じた。		
	関係作りの困難さ	小学校との連携は管轄の違いという点で難しい		
	関係作りのための保健師の姿勢	「ここから出発地点となって広まっていく」との発言からは、とても(活動に対する)意欲が見られ、積極的に地域の住民の方々と交流を図ろうという気持ちがあるのだとわかった。		
状況認識	生活実態の把握と背景の分析	転出入が多く、昔から住んでいる人と新しく住みはじめた人が混在していることから、近所との付き合いがどんな風になっているか、この地域の勝手がわからず、交流しなくてもいい人、又は交流の習慣がなかった人など様々なスタイルの人がいると考えられる。	47	
	地域の潜在的課題の存在	このように地域のつながりが良いところでは、お互いを支えあい生活することができるが、活動がないところではどうなっているのかということが疑問であった。そこには隠れた問題がたくさんあると考えられ、その問題への対応を考えていかなければならないと思われる。		
	状況認識の必要性	西部は県営住宅が多いことで子どもの数も多く、逆に東部は昔ながらの町並みで高齢者の増加がいう地区の特徴を保健師がしっかりと把握したうえで各地区ごとのニーズを検討していくことの重要性がいえる。		
	地域看護活動の地域における意義	近所の保育所の子ども達とのふれあいの時間があり、高齢者も子どもも楽しみながらレクリエーションを行っていた、これらが地域ネットワークの形成に重要な役割を持っていると思う。		
	住民と直接接点を持つことの必要性	対象者に接している者が情報交換することで対象者を深く理解することができ、必要な支援を考えることが出来る。		
	課題を確認することの必要性	地域住民の健康意識を確認することは、歯科に関する現状とニーズを把握するために大切なことであると感じた。		
	具体的情報把握の必要性	運動ひろばに参加し、A地区の特徴(土地・環境など)を知り、活動の具体的な内容を把握することができる		
	社会情勢を捉える視点の必要性	事業に参加して分かったことは、多くのニーズに対応する内容が核家族化・高齢化というような時代の流れに沿って検討されていることでした。その視点の重要性を実感できました。		
	主観的かつ客観的情報の必要性	住民の方々の健康課題を見出すためには、実際に住民の方から聞いた話や自分が歩いてみたことからの主観的な考えを裏付けるための客観的な情報が必要である。		
	地区踏査の必要性	ただ高齢化率や出生数などの数字を見るだけでは、情報不足であることがわかった。実際にその地域に行き、地域の人と直接接することが大切である。		
関係分析	社会資源の役割把握	民生委員さんは地区の多くの情報を持っておりその情報は地区の住民からの生の声であったりと住民同士のパイプ役だけでなく、区役所や保健師のパイプ役を果たしていた	34	
	関係機関・住民と連携し地区診断をする必要性	地域性を十分に把握し、その中で必要な取り組みを行政だけでなく、民間で、または住民たちと連携しあい行っている事が分かった		
	個と地域の課題を関連させ分析することの必要性	支えることができる地域づくりという視点から、保健師は個人に關係するだけではなく、個人の環境へも関わり、個人がよりよい生活ができるようにアプローチしているのだとわかった。		
	関係分析の必要性	『町づくり協議会』が今後も大きな役割をもつことになり、その中に含まれる社会福祉協議会や学校、保育所、老人会等の各組織の協力が欠かせない事が分かった。		
	連携して取り組み方法	事業の中で様々な職種の方と連携し、関わっている場合もあれば母親同士が助け合っていくために関係的に支援していく事も必要である		
	住民の主体的な取り組みと行政の役割	地域のことは地域で考え解決していく仕組みづくりがあることから、地域住民が主体となり自主的に活動し、行政側がそれを支援しているという特徴を持っていると思う。		
問題分析	現状からの問題・課題の分析	坂道が多いという変えられない環境の中でも、外でいろんな人と交流をもてることにより、身体的能力の低下の促進・後たかりを予防するために出かけるときの送迎の実施、近所の方のお互いの助け合いなど地域の中での小さな働きかけをすることが必要だと感じた。	31	
	将来予測の必要性	そのような地域に対して、今だけでなく将来のことも考えた事業を行っていくことも大切であることがわかった。		
	予防的な視点の必要性	考えられる問題が顕在化する前に何らかの予防措置をとる必要性が考えられる。		
	社会情勢を捉えた課題分析の必要性	今後、将来に向けて母親間で活動のレベルアップの検討をすることは、さらなる少子化などの時代の流れを考慮して行うことが必要だと感じる課題の部分である		
	生活環境と健康上の課題分析の必要性	相談内容や相談環境などの他地域との違いを見ることで、生活環境と健康上の課題の関連性を考える。		
	他職種と連携して分析する必要性	専門スタッフとの連携としては、連携することによりそれぞれの情報を共有することができ、より深く対象や事業に関することが出来る。また他の専門の知識を得ることができ多面から考えることが出来る。などの利点があると感じました。		
波及効果も含めた分析の必要性	特に若い世代、現在の食生活、ダイエットなど若年齢が高くなる危険性が高い状況にある。特に母親は自分の食生活を見直す事で子どもの食生活を見直す事につながる。			

地域看護学実習における地域看護活動の展開スキルの学習内容

スキル	学習内容	抽出した文脈例	文脈数	合計 (割合)	
共有・合意	場の設定	共有・合意の場の必要性	このような場から地区における問題点の発見や話し合う機会が生まれ、地区住民が主体となった街づくりにつながるのではないかと考えられる。	5	21 (12.1%)
		場の雰囲気作り	自由な雰囲気を大切にしながら進めていくことが必要だと感じました。		
	情報収集	住民の声を聞く体制作りの必要性	保健師はいつも地域の中に入っているわけではないので、地域の人たちの声を聞くということがとても重要になってくる。その声を聞くためにもルートをしっかり作っておくことが大切である。	2	
		日頃からの情報収集の必要性	レクリエーションに保健師が参加することは、住民の状況を把握でき住民の意見や情報を収集出来る重要な機会である。		
	アセスメント	住民と共同する意義	専門職だけでなく地域の住民も含めた連携のほうが地域の人の身になれると思う。	5	
		活動の地域における意義	近所の保育所の子ども達とのふれあいの時間があり、高齢者も子どもも楽しみながらレクリエーションを行っていた、これらが地域ネットワークの形成に重要な役割を持っていると思う。		
	合意にむけた働きかけ	働きかけ先を見極める必要性	地域の人だけでは解決できない問題には保健師さんが入ってどんな人たちが分かるといのかを選択していると思う。	9	
		住民・専門職と合意をすることの意義	地域住民と専門職との連携が大切であるということは、専門職から見えるものと住民から見えるものが違うので、違う立場からの情報をお互いに交換することによって最善策を考えていくことにつながっていくと考えたからである。		
		共有合意の保健師の関わり	一人の人を地域で支えているということを実感できた。保健師は地域保健福祉に関わり、個人へのアプローチだけでなく環境へのアプローチも行っており、専門職と地域住民との連携の重要性や、地域で核となる人のコーディネートをすることが大切なことであると考えることができた。		
		住民参加の意義	子育て支援を行うときに地域の住民の声が主体的に行う地域のつながりを徐々にもつていくことができるのではないかと考える。		
予防的に関わるための共有の必要性		問題が生じてからの訪問ではなく、事前の定期的な継続した支援体制を整えることが重要になると感じることができた。			
企画	企画	企画の内容	事業を検討する際にはその内容だけでなく、会場の距離や環境も考慮する事が大切だと感じた。	2	2 (1.1%)
		住民のニーズを生かした企画の必要性	住民の意見を知ることができ、このようにして保健師は住民のニーズを知り、よりよい事業にするために生かしている。		
協力・共同	協力依頼	協力して活動することの必要性	保健師の役割は、①対象者の疾患の状態、薬、生活行動の指導方法、医師からの情報の伝達、対象者の見守り、社会資源などの情報を提供しカンファレンス内で対象者により良い支援を考えるようにする。②支援している地域住民が支援しやすい環境作り(行政としての責任を持つ、不安や不満の傾聴と助言)③地域のつなぎ(場の設定、支援者達のつなぎ)などがあると考えられる。	8	8 (12.1%)
		協力体制の必要性	それぞれの専門職が見る視点は異なりこれが多方向から捉えられ深く知ることができ、異常の早期発見となっていると思う。		
		主体的な決定を促す方法	保健師は情報提供、まとめ、司会者役に回る事業の詳細の計画は参加者の声を主体としていた。		

\*1 複数の文脈があるものは最も的確に表現しているものを1文脈記入した。複数の内容を含んだ文脈については最終文の内容を優先して分類した。

Table3. Learning matters based on the developmental skills of community health nursing activities.

ための努力が必要であると言うことを知った。このことから住民同士の関係を見る必要があると感じた。』等の表現から「住民同士の関係から生活・課題・地域看護活動の分析することの必要性」を、『一方的におしつけるのではなく、このような活動を行って一人一人が交流を図っていくことでお互いを知り得てこそ、理解につながるのではないかと考えた』等から「住民間の交流の必要性」を抽出した。

(3) 働きかけ

関係作りのための働きかけについて、「見通しをもった幅広い視野での関係作りの必要性」、「住民・他機関と関係を作る必要性」、「関係作りの困難さ」、「関係作りのための保健師の姿勢」を抽出した。『学校などとの連携も、問題がないときにネットワークを結んでおくと、なにか問題があったときに問題が表出しやすい。』等から「見通しをもった幅広い視野での関係作りの必要性」、「保健師は、住民が地域組織や関係機関を超えたレベルで地域を考えられるように、環境作りをする役割があると感じた。』等の表現から

「住民・他機関と関係を作る必要性」を抽出した。

2) 地域診断

「地域診断」の内訳は、「状況認識」47文脈、「関係分析」34文脈、「問題分析」31文脈であった。

(1) 状況認識

「状況認識」について、「生活実態の把握と背景の分析」、「地域の潜在的課題の存在」、「状況認識の必要性」、「地域看護活動の地域における意義」、「住民と直接接点を持つことの必要性」、「課題を確認することの必要性」、「具体的情報把握の必要性」、「社会情勢を捉える視点の必要性」、「主観的と客観的情報の必要性」、「地区踏査の必要性」を抽出した。『転入が多く、昔から住んでいる人と新しく住みはじめた人とが混在していることから、近隣との付き合いがどんな風になっているか、この地域の勝手かわからず、交流したくてもできない人、又は交流の習慣がなかった人など様々なスタイルの人がいると考えられる。』等の表現から「生活実態の把握と背景の分

析」、『活動がないところではどうなっているのかというところが疑問であった。そこには隠れた問題がたくさんあると考えられ、その問題への対応を考えていかなければならないと思われる。』等の表現から「地域の潜在的課題の存在」を抽出した。また、『地区の特徴を保健師がしっかり把握したうえで各地区ごとのニーズを検討していくことの重要性がいえる。』等の表現から「状況認識の必要性」を抽出した。

## (2) 関係分析

「関係分析」について、「社会資源の役割」、「関係機関・住民と連携し地区診断をする必要性」、「個と地域の課題を関連させ分析することの必要性」、「関係分析の必要性」、「連携して取り組む方法」、「住民の主體的な取り組みと行政の役割」を抽出した。『民生委員さんは地区の多くの情報を持っておりその情報は地区の住民からの生の声であったりと住民同士のパイプ役だけでなく、区役所や保健師のパイプ役を果たしていた。』等の表現から「社会資源の役割」、「地域性を十分に把握し、その中で必要な取り組みを行政だけでなく、民間で、または住民たちと連携している事が分かった」等の表現から「関係機関・住民と連携し地区診断をする必要性」、そして、『保健師は個人に関係するだけではなく、個人の環境へも関わり、個人がよりよい生活をできるようにアプローチしているのだとわかった。』等の表現から「個と地域の課題を関連させ分析することの必要性」を抽出した。

## (3) 問題分析

「問題分析」について、「現状からの問題・課題の分析」、「将来予測の必要性」、「予防的な視点の必要性」、「社会情勢を捉えた課題分析の必要性」、「生活環境と健康上の課題分析の必要性」、「他職種と連携して分析する必要性」、「波及効果も含めた分析の必要性」を抽出した。『坂道が多いという変えられない環境の中でも、外でいろんな方と交流をもてることにより、身体的能力の低下の促進・寝たきりを予防するために出かけるときの送迎の実施、近所の方のお互いの助け合いなど地域の中での小さな働きかけをすることが必要だと感じた。』等の表現から「現状からの問題・課題の分析」、「そのような地域に対して、今だけでなく将来のことも考えた事業を行っていくことも大切であることがわかった。』等の表現から「将来予測の必要性」を抽出した。また、『これらの考えられる問題が顕在化する前に何らかの予防措置をとる必要性が考えられる。』等の表現から「予防的な視点

の必要性」を抽出した。

## 3) 共有・合意

「共有・合意」の内訳は、「場の設定」5文脈、「情報収集」2文脈、「アセスメント」5文脈、「合意に向けた働きかけ」9文脈だった。プレゼンテーション、リーダーシップに関する文脈は抽出されなかった。

### (1) 場の設定

「場の設定」について、『このような場から地区における問題点の発見や話し合う機会が生まれ、地区住民が主体となった街づくりにつながるのではないかと考えられる。』等の表現から「共有・合意の場の必要性」、『自由な雰囲気大切にしながら進めていくことが必要だと感じました。』等の表現から「場の雰囲気作り」を抽出した。

### (2) 情報収集

「情報収集」について、「住民の声を聞く体制作りの必要性」、「日頃からの情報収集の必要性」について抽出した。『保健師はいつも地域の中に入っているわけではないので、地域の人たちの声を聞くということがとても重要になってくる。その声を聞くためにもルートをしっかりと作っておくことが大切である。』等の表現から「住民の声を聞く体制作りの必要性」を抽出した。

### (3) アセスメント

「アセスメント」について、「住民と共同する意義」、「活動の地域における意義」、「働きかけ先を見極める必要性」を抽出した。『専門職だけでなく地域の住民も含めた連携のほうが地域の人の身になれると思う。』等の表現から「住民と共同する意義」を抽出した。

### (4) 合意に向けた働きかけ

「合意に向けた働きかけ」について、「住民・専門職と合意をすることの意義」、「共有合意の保健師の関わり」、「住民参加の意義」、「予防的に関わるための共有の必要性」、「プライバシー保護の配慮」を抽出した。『地域住民と専門職との連携が大切であるということは、専門職から見えるものと住民から見えるものが違うので、違う立場からの情報をお互いに交換することによって最善策を考えていくことにつながっていくと考えたからである。』等の表現から「住民・専門職と合意をすることの意義」を抽出した。

## 4) 企画

「企画」に関するものは2文脈抽出した。学習内容

は「企画の内容」「住民のニーズを生かした企画の必要性」であった。

### 5) 協力・共同活動

「協力・共同活動」に関する8文脈はすべて協力依頼に関するもので、交渉に関するものはなかった。学習内容は「協力して活動することの必要性」、「協力的体制の必要性」、「主体的な決定を促す方法」であった。『それぞれの専門職が見る視点は異なりこれが多方面から捉えられ深く知ることができ、異常の早期発見となっていると思う』の表現から「協力的体制の必要性」を抽出した。

## III 考察

行政における地域看護学実習の「地域看護活動の展開スキル」の学習内容は、「地域診断」を中心に学んだ。「関係作り」「共有・合意」「企画」「協力・共同活動」は必要性を理解し、システム・事業の運営「情報管理」に関するものはなかった。

「地域診断」は、地域全体を対象とした看護展開の中で、地域看護活動の実践の開始部分を占める大切な活動<sup>4)</sup>の部分であり、この部分を重点的に学んでいることは、地域看護活動を展開するための重要なスキルを学んでいるといえる。

田島<sup>5)</sup>は、看護実践過程に必要な教育内容として、看護実践の場面を前提とした帰納的思考と、取り上げるケースの状態の改善を目標とした演繹的思考を同時に行う思考過程を反芻することと述べている。実習前指導で生活実態の背景分析の必要性について確認し、地区事業に参加することで「交流したくてもできない人」や「交流の習慣のなかった人」の背景にある地域特性や個人の歴史の存在に気付き、生活実態の背景分析の理解を深めている。このように、既習の知識・理論を、実習場面で確認することによって知識・理論の理解を深める演繹的学習を行っている。知識・理論の確認は、実習前指導の場面だけでなく、自己学習やカンファレンス等を通して行っている。また、演繹的学習だけでなく、具体的な実習で出会った場面から、「地域のつながりが良いところでは、お互いを支えあい生活することができるが、活動がないところはどうなっているのか」という疑問を持ち、潜在的な問題について理解する帰納的学習も行っていた。このように、演繹的・帰納的学習を行い理論と実践を統合し学習することによって、地域の課題・問題の把握と分析に関する展開スキ

ルの理解を深めている。

地域看護活動における「地域診断」の意義は、地域で生活している人々を対象にした地域看護活動において、対象となる人々や地域の問題を明らかにし、それらを解決し、よき方向に導くことであり、地域活動の目標や方向性を明確にし、以後の活動につなげるものとしての意義がある<sup>7)</sup>。しかし、本研究において明らかとなった展開スキルの学習内容は、地域の問題・課題の分析であり、それらを解決するための地域看護活動の目標や方向性にむけての分析は不十分であった。今後、地域看護活動の目標や方向性にむけての「地域診断」展開スキルを学習するために、地域看護活動の構想を前提にした「地域診断」をおこなう教育方法の開発が必要である。

「関係作り」「共有・合意」「企画」「協力・共同」に関して、学生が参加見学した看護活動の内容と「共有・合意の場の必要性」「住民の声を聞く体制作りの必要性」「予防的に関わるための共有の必要性」等の展開スキルの必要性を理解していた。しかし、実際の活動につながる展開スキルの理解には至らなかった。学生が実際に分析展開を行うことができなかったため必要性の理解にとどまったと思われる。「地域診断」について、地域の課題・問題の把握と分析に関する展開スキルを理解できたのは、実際に分析を実施できていたためである。学生自身が展開スキルを獲得するためには実体験をすることが必要である。

行政における地域看護活動は数ヶ月及び数年にわたり展開されていることが多いため、限られた実習期間においてすべての展開を実施することは難しい。地域看護学実習でどのような地域看護活動の展開スキルをねらうのか、また、ねらえるのかを検討し、地域看護活動の実践能力を目指した実習目標の設定が必要である。また、実習を展開するにあたって、実習環境のひとつである本大学の実習施設は、学生100名に約30箇所である。その内、毎年固定しているのは7施設のみであり、それ以外の施設は流動的である。そのため教育方法について教員と指導者が協議・合意し教育方法の改善等に結びつけることを困難にしている。これらの課題について研究を進めていきたい。

また、本研究においては行政における地域看護学実習の地域看護活動展開スキルについて明らかにしたが、本学において地域看護学実習を構成する在宅、企業、診療所実習についても、学習内容を明らかにし、全体の教育方法を検討していきたい。

付 記

本研究の一部は2003年度西南女学院大学共同研究費の助成を得て行われた。

文 献

- 1) 杉森みど里：看護教育学．第3版．pp 241,医学書院．東京,1999
- 2) 村山正子：大学における地域看護教育の現状と課題．保健婦雑誌．56：pp 270-275,2000
- 3) 田島桂子：看護実践能力育成に向けた教育の基礎．医学書院．pp 153,東京．2002
- 4) 山田和子：地域保健分野における保健婦の新たな看護方法に関する研究．1999
- 5) 平山朝子編：公衆衛生看護学体系 1 公衆衛生看護学総論 1 第3版．pp 79,日本看護協会出版会．東京,1999
- 6) 前掲書3)．pp 154
- 7) 金川克子：地域看護診断技法と実際．pp 11,東京大学出版会,2000



## The study of students' learning matters in the course, Community Health Nursing Practices

Naoko Ito    Yukako Shigematsu    Akiko Fukahara    Saori Yamada  
Mika Kage    Junko Noumi    Mikiyo Isii

### < Abstract >

This Article presents a study of students' learning matters in the course, Community Health Nursing Practices at administrative, which focuses on the developmental skills of community health nursing activities at Seinan Jo University.

Two clarified points about students' learning matters on the developmental skills of community health nursing actions are the following:

1. Students mainly learned community health nursing diagnoses. In addition, students understood the importance of establishing a relationship, sharing, agreement, planning, cooperation and collaboration while learning their developmental skills. However, students did not focus on the matters of management networking, projects and informational administration because there was no record about those matters.
2. Community health nursing diagnoses by students concentrated on analyzing problems and issues in communities they took part in.

As a result, the three subjects that should be improved upon the curriculum of community health nursing practices are the following.

1. Modification of the developmental skills curriculum of community health nursing activities.
2. Improving pedagogy, which gives students hands-on experience to develop their skills in community health nursing.
3. Examination of learning environmental factors on the practice.

keywords: Community Health Nursing Practices, the developmental skills of nursing, 'learning matters, skills of practice, community health nursing diagnoses